

## ◆ ニュース ◆

## 第47回医学教育セミナーとワークショップ in 沖縄

第47回医学教育セミナーとワークショップ (S&W) は平成25年1月25日(金)～27日(日)の3日間にわたり、琉球大学クリニカルシミュレーションセンターとの共催で、同センター(プレカンファレンス、金曜日のみ、ダイワロイネットホテル那覇国際通り)において開催した。参加人数は講師を含め154名であった。以下、各コースを概説する。

プレカンファレンスシンポジウム「WFME Global Standard: Perspectives from East Asian experiences - Adaptation, Reformation or Quality improvement?」は、吉岡俊正(東京女子医科大学)、奈良信雄(東京医科歯科大学)、北村聖(東京大学)の企画で、総勢41名の医学教育関係者が集い、オープニングに相応しく盛会であった。冒頭では、ゲストスピーカーである Ducksun Ahn (Korea University Medical College) と、Keh-Min Liu (Kaohsiung Medical University, Taiwan) により、東アジアの国々の取り組みや、認証団体の創設、実際の外部評価の事例、学内の变化など詳細な情報が満載の御講演を拝聴することができた。また企画者である吉岡俊正による女子医科大学の外部評価受審報告ののち、実際の WFME グローバルスタンダードに則って、医科大学の自己点検に挑戦するという課題を参加者によるグループワークでこなした。岐阜大学客員教授の Farhan Bhanji (McGill University, Canada) や、東京大学客員教授の Jeffrey G. Wong (Medical University of South Carolina, US) も議論に積極的に参加頂き、まさに太平洋アジア地区の現状を把握できた良きシンポジウムとなった。今後は、基準を満たすべく多くの医学教育の改善がなされるべきであるが、一方で我が国の実情に応じた現在の医学教育システムの長所を理解し、その研究が根拠として提言されることで真の国際化が実現すると思われる。

**WS-1: 「SP 大交流勉強会」** は、藤崎和彦・村岡千種 (MEDC) により実施された。岐阜、徳島、東京、札幌、広島、千葉と行われてきた SP 大交流勉強会が、今回は大きく海を越えて沖縄で開催された。北は岩手、山形から、南はご当地沖縄まで、40数名の模擬患者、教員、養成者が、医学、歯学、薬学、看護、作業療法、栄養学と幅広い領域から集まり、暖かい沖

縄でとてもホットな話し合いが行われた。初日は活動交流と参加者の関心のあるテーマごとでの経験交流、2日目は「演技の標準化」と「フィードバック」という2テーマでの勉強会を実施し、とても満足度の高いワークショップになった。

**WS-2: 「地域医療教育プログラム開発」** は、武村克哉(琉球大学)、長谷川仁志(秋田大学)、大脇哲洋・根路銘安仁(鹿児島大学)により、企画実施された。学生を含む参加者12名が2グループに分かれ、地域における理想の医師像を話し合い、アウトカムを設定し、地域医療教育カリキュラムの作成を行った。また、鹿児島大学の学生による地域医療教育の経験や総合診療力・医療連携力の育成を目指した秋田大学の取り組みが報告された。グループワークおよび全体セッションにて活発な討論が行われ、地域医療教育の評価についても意見が交わされた。熱意のある先生方との交流を通して、今後の活力が湧いてくるワークショップであった。

**WS-3: 「臨床倫理ワークショップ」** は、金城隆展(琉球大学)による企画、本村和久・金城紀与史・屋良尚美(沖縄県立中部病院)講師のもと、全国から多様な医療職者が参加し実施された。「ナラティヴ」と「ナンクルナイサ(沖縄の倫理的生き方)」という2つのキーワードを手掛かりに、参加者全員が読み、物語を書き、考え、互いに共有しあう参加型の実習であった。ばらばらの写真から物語を作るエクササイズや、1つの症例に関わる複数の人物に関して、性格や経験がばらばらに描かれたカードをもとに、その人物の物語を紡いでいき、多様な人間関係やその考えを共有し、理解を深めるというワークがなされた。参加者誰もが自然とストーリーに引き込まれて、熱く意見を語り、また傾聴しあう姿は、圧巻であった。臨床倫理の理解はもとより、医療倫理教育の在り方の可能性を探るという意味でも大いなる可能性を感じるワークショップであった。

**WS-4: 「研修医のメンタリングとサポート」** は、吉村仁志(沖縄県立南部医療センター・こども医療センター)、尾原晴雄(沖縄県立中部病院)、青野真弓(聖路加国際病院)、岡田唯男(亀田ファミリークリニック館山)により実施された。医師育成は伝統的に指導

## ◆ ニュース ◆

医から研修医への一方向的な知識・技能の伝達と叱咤激励という、個人的・インフォーマルな形で行われてきたが、「研修医のサポート、メンタリング」というような言葉ではほとんど語られてこなかった。現代医療の複雑化・細分化、患者期待度の高度化の中で、個人の善意と工夫によるインフォーマルな指導に任せてばかりもいられない時代になり、より科学的、組織的アプローチと、個々の研修医に寄り添って一緒に考え、患者や社会に対する説明責任を果たすことが必要になってきた。今回のワークショップでは、「指導困難な研修医への対応」、「研修医へのメンタリング」、「臨床研修事務担当者の役割」という側面から研修医のサポートをどのように行い、優れた医療人を育成するかを議論した。参加者は医師、事務職員、心理、コミュニケーションの専門家など多彩な顔ぶれで、まさに組織一体となって研修医を育成する議論が行えた。

**WS-5:**「SPSSを用いた教育研究の統計学～中級編～」は、大西弘高（東京大学）がタスクを務め、医師、看護師、薬剤師など17名の参加があった。日頃行っている質問紙調査の統計学的な解析を、IBM SPSS®（SPSS）を用いたアドバンスドな方法を学んだ。いくつかの日頃教育や診療で行っているような身近な事例（データ）が提示され、そのデータを各自で分析作業を行った。その後全体で確認しあい、問題点やさらなる解釈がないかを討論するという進め方で行われた。参加者からは、熱心な質問や新たな分析方法の提案が

出された。このような統計方法をより学ぶことで量的な調査がよりレベルアップでき、質問紙のブラッシュアップにもつながることにも触れられた。

セミナーは、岐阜大学の客員教授であるFarhan Bhanjiにより「Understanding how we learn—Implications for Educators」と題し、人はいかに学ぶのか？ という根源的、かつ教育者には実に重要な問いに関するテーマで講演がなされた。誰もが経験した自転車乗りの事例による導入ののち、Contextual learningやMeaningful learningなどの認知心理学的理論について、トリックのあるエクササイズを挟みながら説明された。さらにその実践への応用としてOne minute preceptorを事例に、その有用性について解説がなされた。認知心理学はともすれば、とっつきにくい、実践への応用が見当しにくい、多くの参加者がこれらのセオリーに関心を持つことができたであろう内容となった。

今回のS&Wを東アジアのHUBに位置する沖縄で開催できたことは、今後の展開を考える上でも意義あるS&Wとなった。

次回第48回S&Wは、6月8-9日に京都大学との共催で開催する。詳細はMEDCホームページを<http://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>。医学教育セミナーとワークショップへの要望、新しい企画などは是非お寄せいただきたい（medc@gifu-u.ac.jp）。

（岐阜大学医学教育開発研究センター 丹羽雅之）

## ◆ ニュース ◆